

□講義科目(専門科目)

科目名	プログラム評価論	2単位
担当者	横山 由香里	
テーマ	実践や介入プログラムの課題や効果等を科学的に評価する方法を学ぶ	
科目のねらい	<p><キーワード> 1. エビデンス 2. プロセス評価 3. アウトカム評価 4. バイアス</p> <p><内容の要約> 近年、社会福祉や保健医療の実践が効果的に行われているかを検証することが求められています。本講義では、実践の経過や実践後の成果・課題等の評価方法を学び研究のリテラシーを高めます。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉や保健医療の領域で行われている取り組み(介入や実践)の効果等に関する文献を、読解できる ・取り組み(介入や実践)を評価する上で重要な視点を理解できる ・科学的な視点で、自身の問題意識や関心に迫るために必要な情報を収集、分析、記述できる ・様々な視点から検討することや個人情報保護の重要性を理解して研究を計画できる 	
授業の進め方	<p>第1回 ガイダンス 第2回 エビデンスとは 第3回 代表的な社会福祉調査法 第4回 介入や実践の「効果」とは 第5回 プログラムを開始する前のアセスメント 第6回 「効果」を評価する方法① 第7回 実際の文献に学ぶ 第8回 バイアスとは 第9回 「効果」を評価する方法② 第10回 プロセス評価とは 第11回 アウトカム評価とは① 第12回 アウトカム評価とは② 第13回 実際の文献に学ぶ 第14回 様々なプログラム評価 第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げる文献は受講者の専門分野に合わせて決めます。 ・進度の都合で授業の順番を変更する可能性があります。 	
事前学習の内容 学習上の注意	論文を事前配布した場合には、各自で目を通しておくことを推奨します	
本科目の 関連科目	研究方法概論	
テキスト	特になし	
参考文献	<p>「プログラム評価 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之著. 新曜社(2011) / 「プログラム評価の理論と方法 -システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド」P. H. ロッシ・M. W. リブセイ・H. E. フリーマン 著, 大島巖・平岡公一・森俊夫・元永拓郎 監訳. 日本評論社(2005)</p>	
成績評価 方法と基準	出席回数(20%)、コメントカードの提出(30%)、ディスカッションへの参加(50%)により、総合的に評価する。全体で60%以上を合格とする。	